

黒西中だより

<http://kuronishichu.style.coocan.jp/>

心のホット相談室

TEL 048-768-5454

TEL 048-764-1110

第 5 号

令和2年8月1日

生徒数	1年 107名	3学級
	2年 92名	3学級
	3年 105名	3学級
	4組 1名	1学級
合 計	305名	10学級

「負けること（失敗すること）」から得るもの ―ヒマワリに想う―

校長 青野 保

生徒玄関脇に、ヒマワリが一輪咲いています。校内で見られる唯一のヒマワリで、強風と大雨のために茎を折られ、まるで腰が曲がっているように見えます。それでも、花は少しでも日光を受けようとするのか上を向こうとしています。

私は、高校時代、柔道部に所属していました。体も細く部内では常に最弱グループにいました。公式試合に出たのは1回だけで結果は当然負け。練習試合で勝ったという記憶もほとんどありません。それでも初段は取得しました。昇段審査は、1回で合格するためには6戦3勝以上、2回以上受験の場合は通算で5勝以上が必要です。私の場合、毎回1勝ずつ5回受験してやっと「黒帯」となりました。負け続けはしましたが、部内では「受け身の天才」と呼ばれ、どんな投げられ方をされても怪我をすることはほとんどありませんでした。

私は、「負けること」あるいは「失敗すること」は決して恥ずかしいこととは思っていません。また、ゲームや勝敗を決する競技などの「負け」は「ルール上の負け」であって「人生の負け」ではない、そもそも人生に「勝ち」「負け」はないと信じています。

私は、負けることで負けることを通してのみ得られる貴重な経験ができていると考えています。これは失敗も同じです。失敗したら次はどうすればいいのかを必死に考える。負けて心が折れそうになるけれど、いつしか盛り返す術を身に付ける。支えてくれる家族や友達、先生の有難さを改めて知る。書物や映画、歌の意味を深く考える。負けたり失敗したりすることは、一時的に辛いことかもしれませんが、人間としての強さや深みを増す貴重な機会を与えてくれているのだと思います。

負けることや失敗することを恐れず、勇気をもってチャレンジすることが大切です。たとえ、負けたり失敗したりしても、必ず得るものはあります。本校の学校教育目標である「夢に向かって 自ら学ぶ 豊かで たくましい生徒」にもある「たくましい」人間となるよう努力をしてください。私達教職員は、全力で応援していきます。

1年生の硬筆展のお手本の文章を紹介します。

「私は失敗したことがない。ただ一万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ。」

これは、白熱電球や蓄音機など数々の発明をしたトーマス・エジソンの有名な言葉だ。失敗は成功するための一つの過程に過ぎず、失敗から学び、さらに努力を重ねることの大切さを語っている。

数回の失敗でくじけたり、あきらめたりせずに、自分の志を成し遂げるまで努力し続けることができる人に、私もなりたと思った。」

間もなく異例の短さである2週間の夏休みを迎えます。生徒の皆さんには、心身ともに自分を鍛える充実した夏休みとしてほしいと思います。

